

中国インターネット事情

マルコ・シェク NRI香港

フィーバーの余熱？

1996年から2000年にかけて世界を席卷したドットコム・フィーバーは、最頂点から1年以上も経過した現在、すっかり冷めている。市場で飽和したドットコム企業は、次の資金を探すだけでなく、より現実性のあるビジネスモデルを確立する必要がある、「新経済」と「旧経済」の融合に活路を見出そうとしているが、それには時間がかかろう。わずかに生き残ったドットコム企業は、事業の買収や提携といった「知的資産の共有化」により、生き残りの確率を高めねばならないだろう。

一方、ドットコム・フィーバーの余熱(?)は、中国にも残っている。中国ではこの数年、インターネットのポータル（入り口）サイトが相次いで設立されている。北京の「新浪網」「搜狐」「8848網」や、広州の「網易」などが代表的である。ドットコムの魅力に引かれて、外資系をはじめとするハイテク企業に就職する学生や帰国子女などが急増している。これは、

政府の開放政策やスピーディな改革の成果ともいえる。

本稿では、中国におけるIT（情報技術）利用状況と通信産業のデータを分析してみたい。

2005年にはインターネットユーザー数3億人！

中国信息产业部によれば、中国の携帯電話ユーザー数は、2001年1～6月に3150万人も増え、1億1700万人に達した（香港を除く）。同部の呉基傳部長は、今後5年間、毎年20%ずつユーザー数が増える」と予測している。一方、インターネットユーザー数は年初よりも400万人増加し、2650万人に達したが、そのうち500～800万人はブロードバンド（高速大容量回線）を利用しているという。

この傾向から、2005年までにインターネットユーザー数は3億人に達すると予測される。世界の通信産業が飽和状態になりつつあるなかで、このような急成長が見込めるのは、政府が先頭に立って企業を積極的に引っ張っているから

だといっても過言ではない。

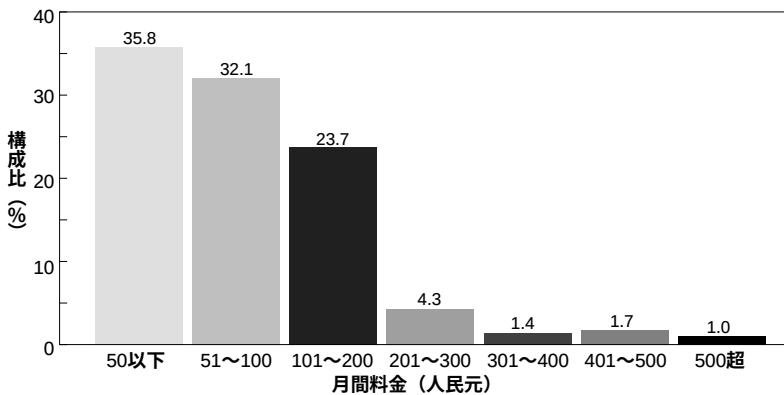
特に上海市政府は、政府の情報化をはじめ、イントラネットの構築、身分証のデジタル化、データの暗号化などを推進する姿勢をみせており、計画中の「上海信息港・インフォポートプロジェクト」は、香港の「数碼港・デジタルサイバーポート」に匹敵するとうわさされている。今後5年間で、上海市が情報産業に投資する額は1500億人民元（約2兆2000億円）といわれる。

一方、CNNIC（中国互聯網絡信息中心）によれば、今年6月末現在で、中国のインターネット端末・パソコン数は1002万台に達した。昨年同期に比べて54%増であり、3年前の54.2万台の18.5倍である。なお、ウェブサイトの登録数は24万2739件となっている。

多様化するインターネットの利用形態

CNNICの調査によれば、インターネットユーザーの61.3%が男性であり、女性は38.7%である。年

図1 中国インターネットユーザーの月間アクセス費用



注) 1人民元は約15円

出所) CNNIC (中国互聯網絡信息中心) の2001年7月の統計 (<http://www.cnnic.net.cn/>) より作成

年齢別では、18～30歳の層が全体の52.9%と過半数を占める。そのうち36.8%は18～24歳の層であり、学生がかなり多いことが推察できる。また、月給1500人民元（約2万2000円）以下の低所得者がユーザー全体の75.1%を占めており、学生がかなり多いため、無収入者の割合も13.3%となっている。

インターネットにアクセスする場所は、自宅が61.0%と最も多く、以下、国家単位（政府機関、国営企業など）45.1%、学校18.3%、インターネットバー15.2%となっている。また、インターネットに支払う費用は月間100人民元（約1500円）以内というユーザーが3分の2以上を占める（図1）。

インターネットに求めるのは、ニュース（63.5%）、パソコン・ソフト・ハード情報（44.2%）、娯楽

（44.1%）、電子出版（32.8%）、科学・教育情報（31.4%）などであり、電子メールの使用率は74.9%である。この数字から、中国市民は情報交換を重視し、高速な情報交換手段として電子メールを歓迎していることがわかる。

インターネット経由で電子商取引を行った人の割合は73.9%で、過去と比べて電子商取引の認知度が高まりつつある。配達やネットワークセキュリティの問題さえ解決すれば、B to C（企業・消費者間）オンラインショッピングも流行するに違いない。

望まれる基盤と環境の整備

最近、香港で「香港と上海市との競争力比較」と題した研究報告が発表された。それによれば、香港は「経済発展の条件」「投資の

受け入れ環境」「都市のイメージ」の3点では明確に上海を上回るものの、「現地の科学研究成果を市場化する」という点では上海に遠く及ばない。上海は、北京、広東省と並ぶ電子商取引の3大発展地区の1つである。過去5年間、上海の情報産業は毎年40%の伸び率で成長し、ソフトウェア生産額は2000年度に5000万米ドルを記録している。

確かに、中国の情報産業は進歩しているが、まだ未熟な面が少なくない。例えば、インターネットユーザー数は多いが、約13億人といわれる総人口と比べれば大幅なギャップがある。このことから、ネットワークの構築やサービスの範囲が不十分なことが推定できよう。また、インターネット接続速度が遅く、不安定な状況も頻繁に起こっているとみられる。

しかし今後は、中国の法制や政策、競争環境、創業投資環境などが改善され、中国のインターネット利用は成熟に向かおう。そのためには特に、①インターネット企業の信頼、②デジタル身分証明、③インターネットの情報安全規格——の確立が最も重要であろう。

マルコ・シェク (Marco Shek)
NRI 香港コンサルタント